

平成 29 年度 花園保育園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育における安全面への配慮や家庭との連携は高い評価になっている。</li> <li>・保育の計画や発達の理解などが「ふつう」と評価した保育士が多く、課題である。保育所保育指針の改訂、施行にともない園内研修などでこの部分の強化を図る。</li> </ul>
II 子どもとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。特に子どもの思いを尊重し、認め、ほめたり励ましたりすることを大切にしているに関しては9割以上の保育士が「よい」と評価。</li> <li>・課題としては、保育士自身が子どもの手本になっているか、保育の技術（内容の創意工夫や導入の仕方）などが半数以上「ふつう」と評価。自らが保育環境であるという自覚を促し、外部研修等でさらなる知識を会得できるようにする。</li> </ul>
III 保護者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、話しやすい雰囲気作り、子育てへ共感や喜びの共有など、全体的に評価が高い。</li> <li>・「子育て支援・就労支援」としての保育という意識が薄いため、保護者の就労環境に対する理解が浅い傾向がみられる。課題として、保護者の事情をくみ取る姿勢が身につけられるよう努力が必要。</li> </ul>
IV 職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に求められている役割の理解、「報告・連絡・相談」、職員との関わり方の評価が高い。</li> <li>・課題としては、改善の提案や成果を追求する切磋琢磨に関して評価が低いので、園内の人事システムを構築する中で、一人一人への意識付けを行う。</li> </ul>
V 自身について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長が楽しみであり、自分がこの職に就いた動機を、自信を持って語るなど評価が高い。</li> <li>・自己研鑽や社会への興味などの評価が「ふつう」。保育以外の世界に触れられるよう、園内研修で異職種に触れる機会を持つ。</li> </ul>

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に意見や苦情を言いづらいとする家庭が回答者の約4分の1を占める。園内評価では「話しやすい雰囲気を作っている」と保育士が評価しており、この部分での乖離がみられる。園内でこのことについて共有し、利用者が意見を出しやすい雰囲気についての話し合いを持つ。</li> <li>・園日より、一日保育士体験に関しては全家庭が読んだり、参加したりしており興味関心の高さがうかがわれる。反面、園のホームページを6割以上の家庭が「見たことがない」と回答。外部に向けての情報発信に偏っているためだと考えられる。</li> </ul>
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答が8割弱。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も7割を超えている。</li> <li>・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は8割を超え、園内の評価とも一致する。</li> <li>・課題としては、「知らない」「よくわからない」と回答された2割前後の家庭に対し、園の方針をいかに伝えていくかがある。</li> </ul>
★環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価</li> <li>・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高いが、2割程度「時々気になる」「どちらともいえない」がみられ、9割以上が利用者とのコミュニケーションや挨拶をしていると評価した保育者との違いがみられる。</li> <li>・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。</li> </ul>